

令和 7 年度 施策評価表

第 2 章 『子どもが大切にされるまち』

まちづくりの目標	子どもたちが、地域の「絆」の中でしっかりと学び、健やかに育っていけるよう、家庭、地域、学校などがそれぞれの役割を果たし、一体となって子どもが大切にされるまちをめざします。
分野別計画・指針	第2期所沢市子ども・子育て支援事業計画(ところっこすくすくサポートプラン)、第5次所沢市障害者支援計画(障害児福祉計画)、所沢市放課後子ども健全育成基本方針、第3次所沢市教育振興基本計画、第4次所沢市子どもの読書活動推進計画、所沢市いじめ防止基本方針

第1節	子ども支援
関係所属	こども支援課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和6年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,264人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「子ども支援」 子育て世帯への支援や相談窓口が充実している	439	19.4%	656	29.0%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
	こども支援センター(子育て支援)の利用者満足度	%	98.35	100	98.66	×

基本方針	事業目標	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
2-1-1 子どもの育成支援の充実	こども支援センター(子育て支援)の利用者数	人	85,856	60,000	68,165	○
2-1-2 子育て家庭への支援の充実	ところっこ子育てサポート事業相談件数(基本型・特定型)	件	872	900	961	○
2-1-3 地域における子育て支援の充実	ファミリーサポート事業の年間利用件数	件	12,155	17,000	13,971	×

節の基本方針への取り組み状況

◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り

- こども支援センター子育て支援エリアでは、交流施設(ひろば)の提供をはじめ、併設している発達支援エリアや関係機関と連携し、相談できる行事や講座の開催を実施し、子育て支援の充実に努めた。
- ところっこ子育てサポート事業では、関係機関と連携し、相談者に寄り添った子育てに関する相談や親子支援に係る講座を開催し、情報提供などの支援を行った。
- ファミリーサポート事業では、地域において子どもの預かり等の援助を必要とする「利用会員」と、援助を行いたい「援助会員」とのマッチングを行い、実績としては前年度と同程度の利用がなされ、子育て家庭が仕事と育児を両立をするための支援につながった。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析

- こども支援センター(子育て支援)の利用者満足度について、不満・やや不満と回答した方はいなかったが、どちらでもないと回答した方と未回答の方がいたためと考えられる。
- ファミリーサポート事業では、目標値には届いていないが、県内他市と比較しても本市の利用件数は多く、コロナ禍以降ここ数年は13,000件を超える高い水準で推移している。

今後の方向性

◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- こども支援センター(子育て支援)では、関係機関と協議・連携し、支援の充実を図る。
- ところっこ子育てサポート事業では、こども家庭センターや関係機関と連携し、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援の充実を図る。
- ファミリーサポート事業では、多様化する保育ニーズに対応するため、援助会員の確保に努めていく。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- こども支援センター(子育て支援)の利用者満足度については、満足度の向上を目指し、継続した支援の充実を図る。
- ファミリーサポート事業では、より多くの子育て家庭に本事業を利用してもらうため、市の広報、SNS等を活用し、事業の周知に努めていく。

SDGsへの貢献			
レ	1 貧困をなくそう	レ	10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R7.7.29	記入者職氏名	こども未来部次長 吉田 美由紀 こども未来部こども家庭センター担当参事 松井 優子

第2節	子ども福祉							
関係所属	子ども福祉課、子ども支援課、子ども家庭センター							
施策に対する市民満足度・要望度 （「令和6年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,264人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度		
「子ども福祉」 子どもの発達や虐待防止の相談・支援体制が整備されている			303	13.4%	556	24.6%		
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況	
	子ども支援センター(発達支援)の利用者満足度		%	93	100	96.7	×	
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標		単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
2-2-1	障害児支援の充実	子ども支援センター(発達支援)の利用者数		人	19,517	22,300	19,636	×
2-2-2	養育環境に配慮した支援の充実	児童家庭相談の件数		件	844	900	831	×
節の基本方針への取り組み状況								
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○子ども支援センター(発達支援)では、障害児通所支援、相談支援、地域支援を実施した。相談支援では心理士等が相談を実施し、併設する子育て支援エリアや子ども家庭センターなどの関係機関と連携するなど、延べ4,569件の相談を行った。地域支援では幼稚園への巡回相談、支援者や当事者の家族向けに対面での啓発講演会及びオンラインでの動画配信を行ったほか、新たに地域の障害児通所支援事業者等の支援者向けに療育のスキルアップのための学習会を行った。</p> <p>○令和6年4月に子ども家庭センターを開設し児童福祉部門・母子保健部門を一体として妊娠期から子育て期に渡り切れ目のない相談支援の充実を図った。児童家庭相談においては、子どもやその家庭に関する様々な相談に対応し、必要に応じて継続的な支援を行った。</p>								
<p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○「子ども支援センター(発達支援)の利用者満足度」については、親身になって対応してくれる、専門家の見解を聞くことができ心強いとの意見を多くいただいている。相談支援においては、利用者の増加に伴い、予約の取りづらさや相談間隔等の希望に添えない場合もあって目標未達成となったものである。</p> <p>○「子ども支援センター(発達支援)の利用者数」については、地域の力を向上させるための研修の参加者が増えたこともあり、前年の利用者数19,557人は上回る結果となったが、目標値には届かなかったものである。</p> <p>○「児童家庭相談の件数」では、妊娠期から出産後にかけて保健師等が全数面談を行っている他、乳幼児健康診査等事業の機会を捉えて相談先を案内していることから、早期に様々な場所で相談することが可能となったこと等、他の選択肢が増えたことも要因の一つと考える。</p>								
今後の方向性								
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○子ども支援センター(発達支援)は、本市の18歳未満の子どもの発達障害の拠点施設でもあり、引き続き早期支援の観点から子どもへの支援を行なっていくため、他機関との連携を充実させていく。</p> <p>○児童家庭相談では、引き続き、電話や窓口、メールで子どもに関する様々な相談に対応し、関係機関と連携し、迅速かつ適切な支援を行う。</p>								
<p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>○子ども支援センター(発達支援)の利用者満足度については、「いいえ」という回答はなかったが、「わからない」と回答した方がいたためと考えている。そのため、相談支援を円滑に実施できるよう関係機関と協議・連携を図っていく。また、利用者数に関しては、より多くの方が講演会や研修会に参加できるよう、周知に注力していく。</p> <p>○児童家庭相談では、相談窓口の周知を図り、相談しやすい環境の整備に努める。関係機関との連携を強化し、虐待予防に努めるとともに支援の充実を図る。</p>								
SDGsへの貢献								
1	貧困をなくそう	10	人や国の不平等をなくそう					
2	飢餓をゼロに	11	住み続けられるまちづくりを					
3	すべての人に健康と福祉を	12	つくる責任 つかう責任					
4	質の高い教育をみんなに	13	気候変動に具体的な対策を					
5	ジェンダー平等を実現しよう	14	海の豊かさを守ろう					
6	安全な水とトイレを世界中に	15	陸の豊かさを守ろう					
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16	平和と公平をすべての人に					
8	働きがいも経済成長も	17	パートナーシップで目標を達成しよう					
9	産業と技術革新の基盤を作ろう							
評価日	R7.7.29	記入者職氏名	子ども未来部次長 吉田 美由紀 子ども未来部子ども家庭センター担当参事 松井 優子					

第3節	子育て環境						
関係所属	こども政策課、保育幼稚園課、青少年課						
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和6年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,264人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度	
「子育て環境」 幼稚園・保育園などや放課後児童クラブが充実している			456	20.1%	605	26.7%	
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
	就学前児童の保育待機児童数		人	26	0	6	×
事業目標の達成状況							
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
2-3-1	幼児教育の支援	幼稚園型一時預かり事業の利用者数	人	104,651	105,000	147,219	○
2-3-2	就学前児童の保育の充実	就学前児童の保育施設の利用者数	人	5,572	6,000	5,703	×
2-3-3	放課後児童クラブの充実	放課後児童クラブの利用者数	人	2,250	2,458	3,101	○
節の基本方針への取り組み状況							
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○就学前児童の保育では、各保育施設に対し、特に保留者が多くなると見込まれる1歳児と地域型卒室からの転園申請がある3歳児の受入枠の拡充し、4月入園の利用調整を行った。</p> <p>○幼稚園型一時預かり事業では、事業の拡充を念頭に、所沢市民の利用する幼稚園に市内外問わず事業実施の意向調査を実施している。</p> <p>○放課後児童クラブでは、目標値を達成してはいるが、多くの保留児童が発生している状態である。保留児童対策として、施設整備や学校施設の活用により定員の拡大を図った。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○就学前児童の保育では、受入枠に対して1歳児、3歳児の保育需要が予想以上に多かったことが影響している。</p>							
今後の方向性							
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○就学前児童の保育では、所沢市こども計画に基づき、保育定員の確保を図る。また、より優先度の高い世帯が保育施設を利用できるよう、公平な利用調整に取り組む。</p> <p>○幼稚園型一時預かり事業では、国の事業実施内容に基づき、適切な補助の実施を継続できるよう努める。</p> <p>○放課後児童クラブの保留児童対策や、狭隘化、大規模化の解消に向け定員拡大を図る。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>○就学前児童の保育では、保育需要の適正な把握に努め、必要な定員の確保を図る。また、各保育施設へ、特に保留者の多い低年齢児童の受入枠の拡充を依頼する。</p>							
SDGsへの貢献							
1	貧困をなくそう	10	人や国の不平等をなくそう				
2	飢餓をゼロに	11	住み続けられるまちづくりを				
3	すべての人に健康と福祉を	12	つくる責任 つかう責任				
4	質の高い教育をみんなに	13	気候変動に具体的な対策を				
5	ジェンダー平等を実現しよう	14	海の豊かさを守ろう				
6	安全な水とトイレを世界中に	15	陸の豊かさを守ろう				
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16	平和と公平をすべての人に				
8	働きがいも経済成長も	17	パートナーシップで目標を達成しよう				
9	産業と技術革新の基盤を作ろう						
評価日	R7.7.29	記入者職氏名	こども未来部次長 吉田 美由紀				

第4節	青少年健全育成						
関係所属	青少年課、社会教育課						
施策に対する市民満足度・要望度 （「令和6年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,264人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度	
「青少年健全育成」 青少年が健全に育つ環境が整備されている			311	13.7%	435	19.2%	
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
	青少年健全育成に関する施策の満足度		%	28.0	31	13.7	×
事業目標の達成状況							
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
2-4-1	家庭・地域・学校みんなで青少年の健全育成	「三つ葉の提言」の配布数	件	3,353	3,500	3,341	×
2-4-2	青少年健全育成の支援	児童館利用者数	千人	364.9	現状値以上	321	×
2-4-3	青少年の教育及び体験活動の充実	所沢こどもルネサンス事業参加率	%	27.0	30.0	28.8	×
節の基本方針への取り組み状況							
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○青少年健全育成に関する施策では、青少年育成所沢市民会議等と連携し、「家庭の日」推進事業や駅周辺での街頭キャンペーン等を実施した。</p> <p>○街頭キャンペーンの実施にあわせて、三つ葉の提言チラシを例年と同数配布した。</p> <p>○児童館利用者数は、利用者数増を目標にイベント等を企画していった。目標値に対して未達となったが、令和5年度と比較して利用者数は7%増となった。</p> <p>○所沢こどもルネサンス事業では、青少年に対する様々な体験活動の充実に努めるとともに、活動団体を支援した。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○青少年健全育成に関する施策の満足度では、ボランティアを行う地域の方が高齢化しており、青少年の興味関心も多様化している中、一定数の満足度を得るための事業実施が難しくなっている。</p> <p>○年2回の街頭キャンペーンでは例年と同数の三つ葉の提言チラシを配布できたが、それ以外の配布数があまり伸びなかった。</p> <p>○児童館利用者数は、イベントなどをコロナ前の状況に戻していったが、目標達成には至らなかった。「児童館は、制限などなく予約なしでも利用できる」ことをもっと利用者に浸透していけばより多くの利用者を見込むことができる。</p> <p>○所沢こどもルネサンス事業の目標未達成は、主に「こども文学のひろば」への作品応募が昨年度より減少したためである。</p>							
今後の方向性							
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○「三つ葉の提言」の普及に向けた啓発活動を実施する。</p> <p>○児童館運営について、引き続き青少年の健全育成の場を確保していくように努める。</p> <p>○所沢こどもルネサンス事業では、青少年が地域で様々な体験活動に参加することで成長できるよう、今後も体験活動の充実と活動団体の継続的な支援に努める。</p> <p>◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>○青少年向け事業では、青少年がより参加しやすい形での事業実施の工夫を重ね、継続的な団体支援を行っていく。</p> <p>○三つ葉の提言では、街頭啓発キャンペーン以外での配布、周知活動を行っていく。</p> <p>○児童館の利用者数増、そして顧客満足度を高めるべく、児童館職員の資質向上やイベント内容の見直しを進める。また、小中高学校をはじめとする公共施設への児童館事業の案内やポスター掲示、地域との連携促進など、積極的に児童館の取組を紹介していく。</p> <p>○所沢こどもルネサンス事業では、多くの子どもたちの参加につながるよう、所沢こどもルネサンス実行委員会と周知方法などを検討していく。</p>							
SDGsへの貢献							
1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう					
2 飢餓をゼロに		11 住み続けられるまちづくりを					
レ	3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任					
レ	4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を					
5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう					
6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう					
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に					
8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう					
9 産業と技術革新の基盤を作ろう							
評価日	R7.7.29	記入者職氏名	こども未来部次長 吉田 美由紀 教育総務部次長 三上 佳明				

第5節	学校教育	
関係所属	学校教育課、保健給食課、スポーツ振興課、教育施設課、教育センター、経営企画課	

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和6年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,264人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「学校教育」 市の小中学校は学びの環境が整備されている	525	23.2%	572	25.3%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
	埼玉県学力・学習状況調査における学力レベルの伸び	レベル	2	2	1.8	×

事業目標の達成状況							
基本方針	事業目標	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況	
2-5-1	確かな学力と自立する力の育成	学力向上推進事業における研究委託校数	校	20	現状維持	19	×
2-5-2	豊かな心の育成	いじめ解消率の小・中の割合	%	51.2	65	48.3	×
2-5-3	地域が信頼する学校づくりの推進	特色ある学校づくり支援事業で活用した地域人材の人数	人	5,603	6,110	3,754	×
2-5-4	健やかな体の育成	学校給食センターの再整備	—	調査	運営	運営	○
2-5-4	健やかな体の育成	学校給食における残食率	%	6.3	7	5.95	○
2-5-4	健やかな体の育成	体力テストにおける上位ランクの生徒の割合(中学校)	%	87.9	89.2	82.6	×
2-5-5	学校環境整備の推進	学校トイレの洋式化率	%	35	56	61	○
2-5-6	学習環境の整備	市内小中学校における電子黒板の導入割合	%	17	50	14	×
2-5-7	教育環境の充実	特色ある私立学校の誘致	—	推進	推進	推進	○

節の基本方針への取り組み状況

- ◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り
- 「トコロン学力向上プロジェクト」研究委託校では、学力向上のために指導方法の工夫・改善の研究を進めるとともに、市内小・中学校へ成果を報告し、学力向上への手立てを共有した。
 - 学力向上推進事業では、特別指定研究校4校、基礎研究校15校に研究を委託し、全校が参加する授業研究会を開催し、多くの教員が参加した。
 - 児童生徒を理解するための教職員の資質向上研修やスクールカウンセラーの配置、課題解消に向けての専門機関との連携などを通し、教育相談体制の充実を図った。いじめの防止に関して、所沢市いじめ防止基本方針及びいじめ対応マニュアルを基にした研修を全校で教職員に対して行い、いじめの早期発見や早期対応、いじめの解消に努めた。
 - 特色ある学校づくり支援事業では、各小中学校が、創意工夫を凝らし、地域の特性を活かした、体験的な教育活動を実施した。
 - 学校給食センターの再整備事業により第2学校給食センターを建設し、令和6年4月に運営を開始し、給食の提供を行っている。
 - 安全な食材の確保や衛生管理の向上、学校給食施設の設備の改修・整備等を行い、安全な学校給食の運営を進めた。
 - 体力向上に向けて取り組んだ成果をテストで発揮できるよう、所沢市児童生徒体力向上推進委員会で作成したお手本動画を活用した。
 - 学校トイレ改修事業は、令和3年度に校舎1系統目が完了したが、引き続き2系統目及び屋内運動場のトイレ改修を行っており、令和6年度の洋式化率の目標を達成することができた。
 - 電子黒板の導入割合について、令和2年度に児童生徒1人1台の学習者用コンピュータを整備したことにより、全ての普通教室及び一部の特別教室に大型液晶ディスプレイが早急に必要となったため、電子黒板ではなく液晶ディスプレイを整備することを優先させた。
 - 開校後の私立学校に関しては、学校からの依頼に応じて市職員が授業に赴き、交流を図った。また、通学路の安全面等の要望に係る市所管部署との調整を行った。
- ◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
- CBT(タブレット端末を活用したオンラインによる解答)による県学力調査を実施した。事前に入門問題を児童生徒に体験させ、タブレット端末で調査を受ける練習を行ったが、入力等に不慣れなことが解答内容に影響を及ぼしたことも考えられる。
 - 学力向上推進事業では、全小中学校47校に、3年に1回の基礎研究校を割り当てるため、目標から-1となった。
 - いじめの解消率について、今回は事務事業評価で示した解消率と整合性をとるために、令和6年12月末日現在の数値として「48.3%」として計上しているが、年度末の暫定値は「72.4%」となり目標は達成している。
 - 特色ある学校づくり支援事業では、各学校において行事の精選を行っており、一部の学習や行事で縮小等があったため、地域との連携活動等における地域人材の活用も減少した。
 - 体力テストにおける上位ランクの生徒の割合は微増したが、スクリーンタイムの増加による運動量の低下や運動内容に偏りなどにより、体力の向上が微増にとどまっている。
 - 電子黒板の代わりに大型液晶ディスプレイを整備することにしたため、評価指標は未達成であるが、大型提示装置の設置率は100%である。

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 令和6年度より「トころん学力向上プロジェクト事業」がスタートし、心のエネルギープロジェクト、所沢市GIGAスクール構想等とも関連付けながら、学力向上の取組を図っていく。
- 学力向上推進事業における特別指定研究校では、「非認知能力の育成」「読解力の向上」「英語教育の充実」に視点を置き、客観的根拠を参考にしながら研究を進めていく。
- 児童生徒が安心してSOSを発することのできる学校の実現とともに、援助を求めることが苦手ないわゆる「目立たない児童生徒」の声なき声にも耳を傾け、微かなサインに気付けるようにするとともに、積極的ないじめの認知のもと初期段階から組織的に速やかな対応を各学校に徹底する。
- 特色ある学校づくりを学校経営の中心的事項とし、地域の特色及び各学校の特色を生かし、創造的に生きるこどもたちの育成を図っていく。
- 引き続き、小中学校給食費補助事業・小中学校給食代替食補助事業により、子育て家庭の経済的な負担軽減を図る。
- 栄養士と教職員が連携し、学校給食における残食率のさらなる減少に努める。
- 体力テストを継続することで、生徒の体力向上を図るとともに、学校が指導等にいかせるようにデータを有効活用する。
- 学校トイレ改修事業の早期完了に向け、引き続き校舎2系統目と屋内運動場のトイレ改修事業を進めるため、学校と調整を図っていく。
- 学校授業における大型提示装置の活用を推進する。
- 開校後の私立学校に関しては、引き続き地元自治会等や市所管部署との連絡調整等を行っていく。

◆前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- トころん学力向上プロジェクトや学校力向上プログラム等を通じて、児童生徒の学力向上を図る。
- 学力向上推進事業では、これまで取り組んできた授業の土台を活かし、特別指定研究と基礎研究を行い、市全体の教育力を向上させていく。
- いじめの解消では、教員、スクールカウンセラー、心のふれあい相談員が連携して相談活動を行うことで、こどもの発するSOSを迅速に受け止め、問題の未然防止、早期発見、早期対応を充実させる。学校訪問や研修を通して、「学校いじめ防止基本方針」や「所沢市いじめ対応マニュアル」の各学校の実行力を向上させる。
- 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）や、特色ある学校づくり支援事業等を活用して、学校・家庭・地域が一体となってこどもたちへ支援・指導を行っていくことで、より一層地域と共にある学校づくりを進めていく。
- 生徒の体力向上や目標の達成に向け、体力テストの結果を分析し、成果と課題を踏まえ、中長期的に体力向上を推進するため、体力向上推進委員と連携し、運動好きな子どもを育てることで子どもの体力を向上させるよう取り組む。
- 各教室への大型液晶ディスプレイの設置は終了のため、今後はその活用方法について検討する。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ 11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
レ 4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
レ 5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ 16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	レ 17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R7.7.29	記入者職氏名	経営企画部次長 並木 茂幸 教育総務部次長 三上 佳明 学校教育部次長 吉川 誠 学校教育部学校教育担当参事 伊東 真吾 学校教育部教育センター担当参事 大庭 真紀子
-----	---------	--------	---